

授業科目名： 看護理論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平山 恵美子、西上 あゆみ 担当形態：オムニバス
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
1. 看護理論の意義について理解できる。 2. 看護実践・理論・研究に影響を及ぼしてきた看護理論の歴史的発展過程を理解できる。 3. 看護理論の構成要素、主要概念、理論の発展過程、評価の枠組みについて理解できる。 4. 代表的な看護理論の概念、特徴を明らかにして、理論と実践のつながりについて理解できる。 5. 看護理論を用いた事例分析を通して、実践への適用の有用性を考究することができる。 6. 以上の学習を通じて、看護理論を自らの看護実践や研究に還元できるように修得することができる。				
授業の概要				
看護理論は、本大学院看護学研究科のディプロマポリシー＜高い倫理観に基づいた深い学識と識見及び豊かな人間性をもち、サービスを受ける者の視点に立った実践ができる＞、＜学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、課題解決のための新たなケア技術やシステムの開発を試みることができる＞の達成に寄与している。 高度実践能力を教育するにあたり、看護理論は専門的な臨床判断と実践力の融合、実践の方向性を決めるエビデンスの基盤となるものである。本科目では、すぐれた看護実践の基盤となる看護の諸理論について理解を深めるために必要な知識を教授する。講義では、看護実践・理論・研究に影響を及ぼしてきた理論と思想の変遷を理解し、看護学を考究していくときに基盤となる看護理論の構成要素、主要概念、理論の分類とその発展過程、評価の枠組みについて理解する。また、代表的な看護理論の概念、特徴を明らかにし、理論と看護実践のつながりについて理解する。さらに、看護理論を用いた事例分析を通して、実践への適用の有用性を考究する。 ※すぐれた看護実践：常に変化する臨床状況に応じて推論し実践ができること				
授業計画				
＜看護理論の基礎的理解＞ 1.ガイダンス、理論とは、看護理論の意義（平山） 2.看護理論の歴史的発展過程-F.ナイチンゲール（西上） 3.看護理論の歴史的発展過程-V.ヘンダーソン（平山） 4.看護理論の構成要素、主要概念、評価の枠組み（西上） ＜主要な看護理論＞ 5.人間関係論（ヒルデガードE.ペプロウ）①（西上） 人間関係論に焦点を当てた基礎理論の歴史的背景と共に、人間関係論で代表的なヒルデガード・E・ペプロウの背景、理論を理解する。 6.人間関係論（ヒルデガードE.ペプロウ）②（西上）				

事例の討議を通して、ペプロウの看護師・患者関係の4段階と看護師の役割を中心に学習を深める。

7.適応看護論（カリスト・ロイ）①（平山）

システム思考に焦点を当てた基礎理論の歴史的背景と共に、システム思考で代表的なロイの背景・理論の大枠を理解する。

8.適応看護論（カリスト・ロイ）②（平山）

事例の討議を通して、ロイのシステム適応理論の学習を深める。

9.ケアリング（パトリシア・ベナー）①（平山）

ケアリング概念に焦点を当てた基礎理論の歴史的背景と共に、ケアリング概念で代表的なパトリシア・ベナーの背景・理論を理解する。

10.ケアリング（パトリシア・ベナー）②（平山）

事例の討議を通して、ベナーのケアリング理論の大枠や提唱する臨床看護実践における卓越性の理解を深める。

<プレゼンテーション：看護理論の事例への適用>

11-14.学生提示事例による事例検討会（平山）

学生が体験した看護実践を基に看護理論を用いた分析を行い、実践への適用の有用性を考究する。

15. まとめ（平山）

レポート課題の提示

テキスト

筒井真優美編「看護理論家の業績と理論評価」 医学書院 ISBN-978-4-260-03961-1

参考書・参考資料等

Julia B. George 編, 南裕子 他 翻訳「看護理論集」 日本看護協会出版会

正木治恵, 酒井郁子 編 「看護理論の活用－看護実践の問題解決のために」 医歯薬出版株式会社

勝又正直 「はじめての看護理論」 医学書院

筒井真優美 編 「看護理論－看護理論20の理解と実践への応用」 南江堂

城ヶ崎初子 「実践に活かす看護理論19」 サイオ出版

野川道子編 「看護実践に活かす中範囲理論」 メヂカルフレンド社

上鶴重美監修「看護学における理論思考の本質」 日本看護協会出版会

アン・マリーナ・トメイ他、都留伸子監訳「看護理論家とその業績（第3版）」 医学書院

学生に対する評価

プレゼンテーション（50%）：学習達成目標4.5を評価

レポート（30%）：学習達成目標1.6を評価

討議を含めた授業への参加状況（20%）：学習目標2.3を評価

レポートは、終了後に返却する。

授業科目名： 看護研究方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 本多 容子、西田 千夏、 藤本 智美、梅田 英子
			担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 1. 研究論文をクリティークできる。 2. 研究課題を探索し、適切な研究方法を選択し、研究結果を正しく示すことができる。 3. 各専門領域における看護実践上の課題の解決のために、適切な研究成果を選択して適用できる。			
授業の概要 本授業はディプロマポリシーの「学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、課題解決のための新たなケア技術やシステムの開発を試みることができる」に対応する資質・能力の醸成に重きをおくものである。 科学的思考能力と研究論文をクリティークする能力を養い、研究課題を探索し、適切な研究方法を選択し、研究結果を正しく示すといった、学術論文を書くために必要な知識とスキルを習得し、さらに、研究成果を適切に活用する能力を身につける。			
授業計画 1. 研究の意義と研究方法の概観 (本多) 2. 質的研究方法のデザイン (西田) 3. 内容分析の研究デザインとクリティーク (藤本) 4. KJ法の研究デザインとクリティーク (梅田) 5. M-GTAの研究デザインとクリティーク (西田) 6. 現象学の研究デザインとクリティーク (藤本) 7. エスノグラフィーの研究デザインとクリティーク (梅田) 8. ナラティブ・アプローチの研究デザインとクリティーク (西田) 9. 量的研究方法のデザイン (本多) 10. 尺度法の理論と応用 (本多) 11. 実験・準実験研究論文のクリティーク (本多) 12. 横断調査の研究論文のクリティーク (本多) 13. コホート研究の論文のクリティーク (本多) 14. ケース・コントロール研究の論文のクリティーク (本多) 15. まとめ (本多)			
テキスト 必要に応じて担当教員が指定する。			

参考書・参考資料等

必要に応じて担当教員が指定する。

学生に対する評価

レポート（50％）、プレゼンテーション（50％）として評価する。

フィードバックは、レポートの返却および授業内での講評をもって行う。

授業科目名： 医療保健システム論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中井 良育
				担当形態：単独
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
1. わが国の保健・医療・福祉における行政体系や施策を理解できる。				
2. わが国の保健医療福祉制度を理解し、批判的に諸制度や施策の動向を批判的に考察し、制度が抱える課題を示すことができる。				
3. 地域で生活する人が望む生活を実現するために必要な保健医療福祉のシステム構築について提案することができる。				
授業の概要				
わが国における少子高齢化の進行、経済の長期低迷、雇用の流動化、社会における人間関係の希薄化、さらには新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって不安定な時代となった今日、保健医療福祉制度の効率化と機能強化のバランスを図り、必要な給付財源の確保と、それを負担する国民の理解と協力を得ることが不可欠となる。制度の効率化と機能強化のバランスを図るためには、保健医療福祉サービスの需要と供給の把握、サービス供給体制の整備、マンパワー問題等について理解を深め、国民の理解と協力を得ることができる解決策を見つけていかなければならない。本科目では、保健医療福祉分野の高度専門職業人として機能するため、保健医療福祉制度の側面から保健・医療・福祉という3つの社会セクターが抱える課題を理解し、わが国及び地域の保健医療福祉にかかわる諸制度や施策について現状と課題を分析し、課題解決に向けたシステム構築について考察することを目的とする。				
授業計画				
1. 授業の概要（オリエンテーション）				
2. 保健医療福祉制度の仕組み（衛生サービス）				
3. 保健医療福祉制度の仕組み（医療サービス）				
4. 保健医療福祉制度の仕組み（介護サービス）				
5. 保健医療福祉制度の仕組み（社会福祉サービス①）				
6. 保健医療福祉制度の仕組み（社会福祉サービス②）				
7. 地域の保健医療福祉にかかわる諸制度や施策①				
8. 地域の保健医療福祉にかかわる諸制度や施策②				
9. 地域の保健医療福祉にかかわる諸制度や施策③				
10. 地域の保健医療福祉にかかわる諸制度や施策④				
11. 保健医療福祉のシステム構築に向けて①				
12. 保健医療福祉のシステム構築に向けて②				
13. 保健医療福祉のシステム構築に向けて③				
14. 保健医療福祉のシステム構築に向けて④				
15. 総括				

テキスト
なし。ただし、manaba上の講義資料あり。
参考書・参考資料等
厚生労働統計協会「国民衛生の動向」各年版のほか、必要に応じて指示する。
学生に対する評価
プレゼンテーション60%、討議への貢献度40%

授業科目名： 看護倫理		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大島 弓子
				担当形態：単独
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
1, 社会からの求められる生命や医療の倫理へのニーズを背景に、医療における倫理の意義、本質、原則について歴史的、理論的な見地から、多角的な検討を加え理解できる。2, 1を基盤として、看護倫理について、その背景、本質、倫理的な課題とアプローチ等について、具体的な倫理的ジレンマ事象を通して検討し考察を加えて述べる事が出来る。3, 1及び2の過程で医と看護の倫理の共通性と相違についても検討を加え述べる事ができる。4, 看護の対象である個人、集団への人権を擁護する視点から、討議、検討し、多様な見方と規準、規範があることを述べる事が出来る。5, 研究における倫理、および組織上の倫理に対する取り組みについても学修し、学修者自ら、看護における倫理的感受性、倫理観の向上を育む事が出来る。				
授業の概要				
看護倫理の意義とその必要性について哲学的、理論的、社会的な見地から考察でき、「倫理」の概念、本質、原則、倫理的なジレンマについて理解する。同時に、生命倫理の歴史的な背景、変遷と現在の社会からの要請の見地等についても理解する。また、医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高めると共に、その専門領域に関する具体的な倫理的ジレンマについて、倫理的な調整等、解決策を含めた考察を深める。さらに看護倫理に対する研究的課題とそのアプローチ、および看護倫理に関する組織での取り組みについても理解する。				
本科目は、ディプロマポリシーの「高い倫理観に基づいた深い学識と識見及び豊かな人間性をもち、サービスを受ける者の視点に立った実践ができる。」に位置づけている。				
授業計画				
1 学修内容の確認、学修希望、看護倫理に関して体験した問題、感じていること				
2 看護倫理の意義とその必要性、医療倫理に対する社会からの要請				
3 伝統的倫理学と近代的倫理学(1)プレゼンテーション				
4 伝統的倫理学と近代的倫理学(2)プレゼンテーション				
5 「倫理」の概念、倫理の原則、倫理と法律との関係、倫理的なジレンマ				
6 生命倫理に対する考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地				
7 看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義				
8 看護実践における倫理的なコンピテンシー：倫理的な感受性、倫理的判断、倫理的な視点からの分析				
9 看護実践における倫理的なコンピテンシー：倫理的なジレンマ・インフォームドコンセント、アドボカシー、課題への調整等アプローチ、アサーション能力の育成				
10 医療および看護場面における倫理的ジレンマ・課題についての事例の検討(1)				
11 医療および看護場面における倫理的ジレンマ・課題についての事例の検討(2)				
12 医療および看護場面における倫理的ジレンマと具体的なアプローチについての事例の				

プレゼンテーションと討論（１）

13 医療および看護場面における倫理的ジレンマと具体的なアプローチについての事例の

プレゼンテーションと討論（２）

14 看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、研究倫理の理解と具体的な取り組み

15 組織における看護倫理の在り方、看護倫理の今後の課題と方向性、まとめ

テキスト

- 1) 手島恵監修：看護者の基本的責務，2020年版，日本看護協会出版会.2023.
- 2) サラT.フライ（片田範子他訳）：看護実践の倫理，日本看護協会出版会.2012.
- 3) ジョイスE.トンプソン，他著，山本千紗子監訳：意思決定10のステップ，日本看護協会出版会.

参考書・参考資料等

- 1) Taylor, C. : Fundamentals of Nursing, The Art and Science of Nursing Care、Unit1、'Values、Ethics、and Advocacy'、7th Edition、Lippincott Williams & Wilks.
 - 2) 和辻哲郎「人間の学としての倫理学」岩波書店.
- 他、講義時に紹介

学生に対する評価

課題発表・プレゼンテーション（40%）、レポート（60%）

授業科目名： 発達医療保健論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 若宮 英司
				担当形態：単独
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
子どもの発達を、身体、認知、心理、運動、行動と多角的に、かつ統合的に把握できる。発達からの逸脱に対処するための基礎的理解を深め、議論することができる。				
授業の概要				
小児発達を生理的現象として医学的に捉える視点を解説する。発達期の乳幼児、小児の保険・医療・福祉領域で看護組織および看護ケアをマネジメントし、関連他職種と連携し協働するための基盤となる知識を身につけることを目標とする。本科目はディプロマポリシーDP2、4に位置付けている。				
授業計画				
1 導入・子どもの発達総論 小児の発達の領域別特異性－正常発達と異常発達				
2 身体の発達Ⅰ 体格および筋、骨格の変化、感覚器と感覚、内分泌、免疫系の発達				
3 身体の発達Ⅱ 身体の発達に関する課題提出				
4 脳・神経系の発達 脳・神経系の解剖生理と小児期の変化				
5 認知の発達Ⅰ 脳・神経の変化と乳幼児期、学童期の認知の発達				
6 認知の発達Ⅱ 小児期の認知の発達に関する課題提出				
7 心の発達と母子関係 母子アタッチメントと心理、認知面の発達の関係				
8 心の発達と環境問題 環境が心理、認知、身体発達に及ぼす影響、虐待				
9 社会性の発達と集団参加 対人性、社会性と幼児期以降の集団参加の問題点				
10 言語の発達 コミュニケーション、論理思考の基礎となる言語の発達				
11 運動の発達 感覚と運動の関係－乳児期の運動発達、その後の協調運動発達				
12 子どもに用いる評価尺度 小児の発達を客観的指標で捉えるための方略とその問題点				
13 子どもに用いる心理検査 代表的な心理検査とその特徴				
14 生理検査と画像検査 より客観的な評価としての生理検査、画像、機能画像の原理				
15 早期診断と早期介入 早期診断、早期介入の必要性とその問題点、取りこぼし、過剰診断				
テキスト				
特に定めず、資料により進める。				
参考書・参考資料等				
日野原 重明,宮岡 等,飯田 順三「脳とこころのプライマリケア 4 子どもの発達と行動」シナジー				
学生に対する評価				
複数のレポートにより判断する。（100％）				

授業科目名： 看護教育論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中野 玲子
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 1. 看護教育を取り巻く環境や歴史的変遷について説明できる。 2. 看護基礎教育および看護継続教育の現状を分析し、課題を明確にすることができる。 3. 将来看護の果たすべき役割を模索し、看護教育の課題解決に向けた方策を探究できる。			
授業の概要 本科目は、本看護学研究科のディプロマ・ポリシーの＜学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、課題解決のための新たなケア技術やシステムの開発を試みることができる＞および＜看護専門職者として専門的役割を示すロールモデルとなって、指導力を発揮して教育的役割を果たすことができる＞を目指すものである。我が国における看護教育の歴史的変遷や現状を理解し、看護基礎教育・看護継続教育の課題に関する演習を通して問題解決能力を養う。また、看護の目指す将来像を展望し、看護教育のあり方を探究する。			
授業計画 1 看護教育の概念 2 我が国における看護教育の歴史的変遷 3 看護教育制度・関連法規 4 看護基礎教育 「看護教育課程」 5 看護基礎教育 「看護教育組織」 6 看護基礎教育 「教育方法と評価」 7 看護基礎教育の現状と課題 8 看護継続教育 「継続教育を取り巻く環境」 9 看護継続教育 「看護の役割拡大」 10 看護継続教育 「新人看護職教育」 11 看護継続教育 「キャリア開発」 12 看護継続教育 「看護の専門性（認定看護師）、特定行為研修、看護管理者教育」 13 卒後教育 「大学院教育、専門看護師」 14 看護継続教育の現状と課題 15 看護教育のあり方と今後の展望			
テキスト 特に指定しない。			
参考書・参考資料等			

- ・看護教育学 第7版 杉森みど里/舟島なをみ著 医学書院
- ・院内教育プログラムの立案・実施・評価 第2版 舟島なをみ著 医学書院

その他、必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

演習状況（70％）、課題レポート（30％）

授業科目名： 臨床心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 足利 学
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 精神医学や臨床心理学の領域で用いられる各種評価（心理学的、行動学的）、悲嘆反応、カウンセリング技法についての体験的理解を深める。精神科領域で用いられる精神・心理学的評価法を学び、臨床および研究のアウトカム指標として利用することができる。			
授業の概要 精神医学領域で用いられる心理学的、行動学的評価やカウンセリング技法についての理解を深める。また、悲嘆反応、精神症状、障害像、評価と介入について理解し、臨床現場で実践できるようになるとともに医療現場のスタッフへ知識と技術を教授できるようになることを目的とする。本科目はディプロマポリシー「高い倫理観に基づいた深い学識と識見及び豊かな人間性をもち、サービスを受ける者の視点に立った実践ができる。」に位置づけている。			
授業計画 第1回：悲観反応についての概論 第2回：心理学的評価（1）：質問紙法 第3回：心理学的評価（2）：投影法 第4回：カウンセリングの技法（1）：傾聴の技法 第5回：カウンセリングの技法（2）：お互いの枠組みを知る 第6回：カウンセリングの演習（1）：認知行動療法の基礎 第7回：カウンセリングの演習（2）：認知行動療法の実際 第8回：心の健康とは：ウェルビーイング・QOL・リカバリー 第9回：統合失調症の症状・障害 第10回：気分・感情障害の症状・障害 第11回：心理学的ストレスモデルとは：ストレス関連障害の症状・障害 第12回：強迫性障害／不安障害の症状・障害 第13回：神経発達障害の症状・障害 第14回：パーソナリティ障害の症状・障害 第15回：生活機能・社会機能			
テキスト 適宜資料を配布する			
参考書・参考資料等 山内俊雄他：精神・心理機能評価ハンドブック．中山書店．ISBN-10: 4521741924			
学生に対する評価 レポート（100％）による．フィードバックに関しては講義中に講評を行う。			

授業科目名： 医療統計学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 五十嵐 朗
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 医療統計学の役割,疫学研究のデザインとコントロールの必要性,観察研究におけるバイアスとバイアスを調整する統計的方法を理解し,研究計画書,論文発表において統計解析を記述できる、実践的な資質・能力を身につけることが最終的な目的である。 具体的には、①医療統計学について重要となる知識・スキルを習得すること、②統計解析ソフトウェアを使用し分析ができるようになること、③それらを活かして研究立案から論文発表に至るプロセスを行えることを目標とする。			
授業の概要 本授業は、看護学研究科のディプロマポリシーの「学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、問題解決のための新たなケア技術やシステムの開発を試みることができる。」に対応するものである。 現実の問題を「統計学的にみる」ことの意味がわかり、研究立案から論文発表に至るまでのプロセスごとに必要な統計学の基礎を修得することを目標とする。			
授業計画 1 統計ツール (EZR) について 2 記述統計量 3 仮説検定 4 疫学研究のデザイン 5 統計テストの選び方 6 差の検定① (studentのT検定、Mann-Whitney検定) 7 差の検定② (対応のあるT検定、Wilcoxonの符号付順位和検定) 8 差の検定③ (3群以上の間の比較) 9 線形回帰と相関係数 10 リスク比とレート比 11 オッズ比とロジスティクス回帰 12 感度・特異度・ROC図 13 生存率解析 (カプランマイヤー図) 14 ハザード比とコックス回帰 15 標本サイズの設計と分析計画の立案			
テキスト なし。随時、資料を配布する。			

参考書・参考資料等

新谷歩「みんなの医療統計 12日間で基礎理論とEZRを完全マスター!」講談社

神田善伸「EZRでやさしく学ぶ統計学～EBMの実践から臨床研究まで～ 2版」中外医学社

学生に対する評価

課題に対するレポート（100%）により評価する。

レポートは、学習到達目標の①～③に対応し、本授業で得た知識・スキルを用いて、統計的方法を理解し、統計解析手法を理解しているかどうかを主眼とする。フィードバックについては、提出されたレポートを添削・返却し、添削コメントに従って修正したレポートを再提出してもらうことで行う。

授業科目名： 国際看護論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 北村 広美
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 ・「グローバル」な看護の視座を獲得する。 ・グローバル・ヘルス・カバレッジの実現に向けた具体的アクションを考える。 世界全体の動きを理解しつつ、多様化する地域住民や患者に最適なケアとは何かを考え、実践力を身につける。			
授業の概要 本科目は、ディプロマポリシー2)「学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、課題解決のための新たなケア技術やシステムの開発を試みることができる。」に位置付けられています。 近年の新型コロナウイルス感染症パンデミックを例に出すまでもなく、保健医療問題のグローバル化は必定です。一方、あらゆる面での格差が拡大しており、社会経済的側面の理解なくしては、適切な看護について考えることはできません。看護の本質は、生命に関する自由権の保障です。その実現の障壁となるものの数々について考え、実践のヒントを得る場にしたいと思います。			
授業計画 1 グローバル化と世界の健康問題 2 地域に暮らす外国人の問題 3,4 フィールドワーク：地域の多文化共生 5 看護職の国際化と多様化 6 国際保健医療政策、ODAと国際NGO 7,8 課題研究と発表、ディスカッション フィールドワーク日程により、順番が前後することがある。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業中に随時指示する。			
学生に対する評価 レポート課題70%、プレゼンテーション評価30%			

授業科目名： 成育看護学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齋藤 祥乃、西田 千夏
				担当形態：複数
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
1. 妊産褥婦と子どもの置かれた生活環境との相互作用を理解し、妊産褥婦と子どもと家族を取り巻く今日の問題について説明できる。				
2. 子どもの成長・発達の諸理論と、子どもの発達評価について説明できる。				
3. 妊産褥婦と子どもを取り巻く様々な状況を理解し、妊産褥婦と子どもと家族に応じた看護の特徴を説明できる。				
4. ヘルスプロモーションの観点から、妊産褥婦と子どもと家族にとって健康の保持増進、健康問題解決に向けて判断できる能力を身につけることができる。				
授業の概要				
健康・不健康を問わず、成育看護の基盤となる子どもの成長・発達に影響する環境との相互作用を踏まえ、現代社会におかれた妊産褥婦と子どもと家族の健康に関する諸問題を把握し、母子看護としての国内外における今日の課題を追求する。さらに、ヘルスプロモーションの観点から、妊産褥婦と子どもとその家族にとって健康の保持増進、健康問題の解決に向けて、母子看護の専門職として高い倫理観に基づいた不快学識と見識、豊かな人間性をもち期待される看護の役割と機能について探求する。				
本科目はディプロマポリシーにおける「第1項」高い倫理観に基づいた深い学識と識見及び豊かな人間性をもち、サービスを受ける者の視点に立った実践ができる、「第2項」学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、課題解決のための新たなケア技術やシステムの開発を試みることができる、に位置付けている。				
授業計画				
1. ガイダンス 授業の進め方 現代社会の諸問題について（日本および海外）（齋藤・西田）				
2. 動向から見た母性の現状（齋藤・西田）				
3. 女性の一生：ライフサイクルから各期と特徴（齋藤・西田）				
4. 子育て中の母親の疾病予防と健康の保持増進（齋藤・西田）				
5. 周産期医療：医療体制とサポートシステム（齋藤・西田）				
6. 母性を取り巻く法律と政策（齋藤・西田）				
7. 母性における生命倫理（齋藤・西田）				
8. 母性看護領域における研究倫理（齋藤・西田）				
9. 成長・発達の諸理論と看護① 欲求階層説（Maslow）， attachment発達理論(Bowlby)， 分離・固体化理論（Mahler）（齋藤・西田）				
10. 成長・発達の諸理論と看護② 心理社会的発達（Erikson）， 認知発達理論(Piaget）， 子どもの自己概念（				

自尊感情，自己効力感）（齋藤・西田）

- 1 1. 小児在宅医療の課題（医療的ケア児の現状と課題，AYA世代の課題）（齋藤・西田）
- 1 2. 小児エンドオブライフケアの現状と課題（齋藤・西田）
- 1 3. 発達障害児にまつわる現状と課題（齋藤・西田）
- 1 4. 小児看護における倫理的課題（齋藤・西田）
- 1 5. 小児看護領域における研究倫理・まとめ（齋藤・西田）

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

オルナ・ドーナト，鹿田昌美/訳，母親になって後悔している 2022 新潮社.
 日本子どもの資料年間 2023 恩陽財団母子愛育会愛育研究所編 中央法規.
 厚生 の指標 増刊 国民衛生の動向 2023/2024 財団法人厚生統計協会.
 厚生 の指標 増刊 国民福祉と介護の動向 2023/2024 財団法人厚生統計協会.
 J・ボウルビー，黒田実郎・大羽葵・岡田洋子・黒田聖一(訳)母子関係の理論1・2・3 1991 岩崎芸術社.
 A・バンデューラ編，本明寛・野口京子監訳・他訳，自己効力 1997 金子書房.
 P・フォナギー，遠藤利彦・北山修（監訳），愛着理論と精神分析 2008 誠信書房.
 J・ピアジェ・E・Hエリクソン，赤塚徳郎・森楸(監訳)，遊びと発達の心理学，黎明書房.
 その他，適宜紹介する。

学生に対する評価

プレゼンテーション(50%)，レポート(50%)で評価する。

授業科目名： 精神看護学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤本 智美
				担当形態：単独
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
1. エビデンスの序列と、精神保健看護学分野に関連するエビデンスの特徴について説明できる				
2. 精神保健医療福祉分野の専門職の実践、並びに多職種協働の実際と課題について説明できる				
3. 当該分野で用いられる研究方法を学修し、自らの研究課題に適した研究方法を考えることができる				
授業の概要				
精神保健看護学は、幅広い年齢層の精神の健康に関わる専門分野である。近年の少子高齢化の急速な進行、家族および地域社会の機能の変化に伴って、対象者の支援のために保健、医療、福祉、教育など多様な分野の専門職の協働が求められている。精神保健医療福祉分野の専門職の実践および研究について、海外の現状も踏まえながら、日本の現状と課題を明確にし、併せて多職種協働のあり方を考察する。文献検討を通して、当該分野で用いられる研究方法への理解を深める。				
本科目は、ディプロマポリシーの「学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、課題解決のための新しいケア技術やシステムの開発を試みることができる」に該当する。				
授業計画				
1. ガイダンス、エビデンスの序列、研究方法について（河野）				
2. 事例研究について（河野）				
3. 事例研究の実際（河野）				
4. 精神保健看護学に関連する実践事例の呈示とディスカッション①（河野）				
5. 実践事例に関連する研究論文抄読①（河野）				
6. 評価指標の検討①（河野）				
7. 精神保健看護学に関連する実践事例の呈示とディスカッション②（河野）				
8. 実践事例に関連する研究論文抄読②（河野）				
9. 評価指標の検討②（河野）				
10.精神保健看護学に関連する実践事例の呈示とディスカッション③（河野）				
11.実践事例に関連する研究論文抄読③（河野）				
12.評価指標の検討③（河野）				
13.文献抄読①（藤本）				
14.文献抄読②（藤本）				
15.まとめ/レポートに関するディスカッション（河野）				

テキスト 特に指定しない。
参考書・参考資料等 適宜紹介する。
学生に対する評価 プレゼンテーション（70％）、レポート（30％）

授業科目名： 災害看護学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：西上 あゆみ 担当形態：単独
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標 ・災害看護に関する知識を深め、災害が人々の健康や生活に与える影響、被災者の健康問題やこころの問題について説明できる。 ・被災者の特徴や要援護者に関する知識を深め、病院や避難生活の環境が被災者に与える影響を説明できる。				
授業の概要 災害に対する知識を深め、災害が人々の健康や生活に与える影響、被災者の健康問題やこころの問題について探求する。被災者の特徴や要援護者について理解を深め、病院や避難生活の環境、被災者に与える影響を学ぶ。本科目はディプロマポリシー「学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、課題解決のための新たなケア技術やシステムの開発を試みることができる。」に位置づけている。 。				
授業計画 1. 災害とは 2. 災害看護とは、災害医療とは 3. 災害関連の法・制度 4. 災害時の情報 5. 災害や災害看護に活用できる検索データベース 6. 災害時の要配慮者：高齢者（対象者にみられること、対象者への施策等） 7. 災害時の要配慮者：妊産褥婦（対象者にみられること、対象者への施策等） 8. 災害時の要配慮者：子ども（対象者にみられること、対象者への施策等） 9. 災害時の要配慮者：精神疾患を持つ人（対象者にみられること、対象者への施策等） 10. 災害時の要配慮者：慢性疾患を持つ人（対象者にみられること、対象者への施策等） 11. 災害時の要配慮者：身体的障害を持つ人（対象者にみられること、対象者への施策等） 12. 災害に対する日本の医療体制 13. 災害に対する地域の保健・福祉・医療体制 14. 被災地における保健医療福祉からの災害支援活動 15. 災害時のこころのケア				
テキスト 特に指定しない				
参考書・参考資料等 その都度、授業内で紹介する				
学生に対する評価 レポート50%、発表50%、レポート課題について発表時に評価のフィードバックを行う。				

授業科目名： 地域保健看護学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原田 小夜
		担当形態：単独	
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 1.地域保健看護学および地域保健看護活動の概念について理解ができる。 2.個人要因、社会的要因を理解するとともに、健康づくり活動について理解できる。 3.健康問題を多面的に明確にすることができ、今後の研究の方向性を探求できる。			
授業の概要 地域保健看護学の変遷および基盤となる理論や最近の知見、保健師の役割と機能、個人、家族、集団、地域を対象とした保健活動や健康課題について教授する。 さらに、個人要因だけでなく、生活や環境を含めた社会的要因について着目し、健康の保持増進回復を目指した個人、家族、集団、地域を対象にした健康づくりについて探求する。 本科目はディプロマポリシーの第2項目である「学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、問題解決のための新たなケア技術やシステムの開発を試みることができる」に位置づけられる。			
授業計画 第1回：地域保健看護学の変遷および関連する理論 第2回：地域保健看護学に関連する理論：プライヘルスケア 第3回：地域保健看護学に関連する理論：ヘルスプロモーション 第4回：地域保健看護学に関連する理論：ハイリスクアプローチ・ポピュレーションアプローチ 第5回：地域保健看護学に関連する理論：保健行動に間する理論 第6回：地域保健看護学に関連する理論：健康の社会的決定要因 第7回：保健師の役割と機能 第8回：個別事例への支援（1） 第9回：個別事例への支援（2） 第10回：地域保健看護活動の展開：情報収集 第11回：地域保健看護活動の展開：地域診断 第12回：地域保健看護活動の展開：ネットワーク・システム化 第13回：地域保健看護活動の展開：事業評価 第14回：地域保健看護活動の展開：施策化 第15回：地域保健看護活動における課題とその対策			
テキスト 特に指定しない。			

参考書・参考資料等

適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート（４０％）、プレゼンテーション（３０％）、ディスカッション（３０％）

授業科目名： 感染管理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中田 裕二
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 ①感染症に関わる基礎的な知識、最新の知見について理解できる。 ②医療安全の活動・運営方法を理解し、感染管理活動に主体的に参画できる。			
授業の概要 現代医学の発達に伴い、適切な感染症の予防・拡散防止には分子生物学的作用の理解から臨床応用までの幅広い知識が求められている。この講義では、病原微生物の感染機構、ヒトが備える感染・発症を防ぐための生体機構、化学療法剤による病原微生物の制御および薬剤耐性化機構について理解を深める内容を教示する。また、これらを基盤とした医療施設における感染管理の具体的な運営について解説を行い、現在の問題点、今後の対策についても考察する。 ディプロマ・ポリシーに挙げている、“看護専門職者として専門的役割を示すロールモデルとなって、指導力を発揮して教育的役割を果たすことができる”講義として位置づけている。			
授業計画 1. 感染管理学概論 2. 細菌の感染機構 3. 真菌・原虫の感染機構 4. ウイルスの感染機構 5. ヒトの免疫機構 6. 消毒・滅菌の作用 7. 化学療法剤の作用 8. 薬剤耐性化機構 9. 感染管理の変遷 10. 感染対策プログラムの構築 11. 医療関連感染サーベイランスの実施方法 12. 医療関連感染データの解析方法 13. アウトブレイク管理 14. 医療施設環境の感染対策 15. 職員の安全衛生対策			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 中野隆史編集 「微生物学・感染症学」 南江堂 ISBN：978-4-524-23798-2 岩田健太郎 監修 「感染予防、そしてコントロールのマニュアル」第2版（メディカルサイエンス・インターナシ			

ヨナル) .2020 ISBN : 978-4-8157-0181-9

学生に対する評価

レポート試験（100％）：学習到達目標①～②を評価する

授業科目名： 災害看護学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西上 あゆみ
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 ・災害看護の視点から、被災した人々の生命や健康、生活や社会の変化に対する影響について看護の現象や事象に存在する意味を分析・考察できる。 ・災害サイクルに応じた具体的で専門的な災害看護活動を理解することができる。			
授業の概要 災害看護の視点から、被災した人々の生命や健康、生活や社会の変化に対する影響について看護の現象や事象に存在する意味を分析・考察し、災害サイクルに応じた具体的で専門的な災害看護活動への有用な知識の構築について探求する。本科目はディプロマポリシー「学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、課題解決のための新たなケア技術やシステムの開発を試みることができる。」「看護専門職者として専門的役割を示すロールモデルとなって、指導力を発揮して教育的役割を果たすことができる。」「保健・医療・福祉のさまざまな領域で看護組織及び看護ケアをマネジメントし、関連多職種と連携し協働することができる。」に位置づけている。			
授業計画 1. 災害史と近年における国内外の災害発生状況と被害状況 2. 災害看護に関連する他の学問分野 3. 災害看護学教育の変遷 4. 災害時要配慮者：自宅で暮らす難病を抱えた人 5. 災害看護に関する倫理的課題 6. 災害に対する病院の備えのあり方と看護師への教育 7. 被災地において災害支援活動を行うための看護師への災害看護教育 8. 被災地での地域のアセスメント 9. 被災地における中・長期的支援のあり方とDMORT活動 10. トリアージの意義と方法 11. 救援者のストレスと倫理的ジレンマ 12. 受援 13. 災害に関する国際救援活動 14. 防災に関する施設見学 15. 防災に関する施設見学の看護への活用			
テキスト 特に指定しない			

参考書・参考資料等

その都度、授業内で紹介する

学生に対する評価

レポート50%、発表50%、レポート課題について発表時に評価のフィードバックを行う。

授業科目名： 感染管理学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中田 裕二
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 1. 薬剤耐性菌の発生機構について理解できる。 2. 対象微生物のサーベランス、分子疫学的解析を経験し理解を深める。 3. 医療施設における病原微生物の拡散防止に貢献できる。			
授業の概要 医療施設における感染管理に必要な知識、資料収集、分析方法を身につける。 薬剤耐性菌を対象としたサーベランスの内容を理解し、実際に耐性菌の模擬分子疫学解析を用うことで理解を深める。 ディプロマ・ポリシーに挙げられている“学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、課題解決のための新たなケア技術やシステムの開発を試みることができる”演習として位置づけている。			
授業計画 1. 感染管理学概論 2. 化学療法剤の作用と薬剤耐性化機構 3. 薬剤耐性菌による感染症 4. 院内感染管理（1）院内感染管理におけるIPC(ICT)の役割 5. 院内感染管理（2）医療関連感染データの解析方法、情報源の検索と問題点 6. 薬剤耐性菌サーベイランスの概要 7. 細菌の菌種同定法、菌株同定法 8. 医療施設内における病原性細菌のサンプリング法 9. 病原性細菌の培養による検出 10. イムノクロマト法による菌体検出 11. 核酸を用いた性状解析（1）核酸抽出法 12. 核酸を用いた性状解析（2）PCR法 13. 核酸を用いた性状解析（3）電気泳動法 14. 分子疫学解析 15. まとめ			
テキスト 配布プリントおよび配布演習テキストを使用する。			
参考書・参考資料等 ・岩田健太郎 監修 「感染予防、そしてコントロールのマニュアル」			

(メディカルサイエンス・インターナショナル) ISBN : 978-4-89592-746-8

・中野隆史編集 「微生物学・感染症学」 南江堂 ISBN : 978-4-524-23798-2

学生に対する評価

演習レポート (100%) : 学習到達目標①～③

授業科目名： 教育学特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田 卓司
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
大学院看護研究科の修士課程を修了し、専修免許を取得した養護教諭としての実践的指導力の醸成がテーマである。今日の学校教育と児童生徒がおかれている現状と課題を総合的・理論的に理解し、科学的根拠に基づいた課題解決の展望と視点を獲得するとともに、高度な専門性に裏付けられた発達支持的指導力を高めることを到達目標とする。			
授業の概要			
テキスト及び文部科学省の発する最新の通知・統計データ等を参照し、最近の教育時事に関して、教員による講義と履修者による報告をテーマに、討議を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション- 教育の基礎となる考え方(教育思想・教育哲学を含む)			
第2回：教育実践と教育法(学校教育法等)			
第3回：学校教育における現代の課題(1)いじめの現状と指導			
第4回：学校教育における現代の課題(2)児童生徒の自殺防止			
第5回：学校教育における現代の課題(3)増加する不登校			
第6回：学校教育における現代の課題(4)生と性の課題			
第7回：学校教育における現代の課題(5)「チーム学校」と機関連携			
第8回：学校教育における現代の課題(6)児童生徒の人権保障と懲戒のあり方			
第9回：日本と世界の教育動向 (1)アクティブラーニング			
第10回：日本と世界の教育動向(2)教育現場におけるICT活用			
第11回：日本と世界の教育動向(3)コンピテンシーとリテラシー			
第12回：授業実践の構造(1)計画・実施・評価			
第13回：養護教諭の教育実践(1) 指導計画の立案			
第14回：養護教諭の教育実践(2)保健指導の模擬演習			
第15回：講義の総括と振り返り			
テキスト			
吉田卓司『教育実践基礎論[改定版]』三学出版(2022年).			
吉田卓司『教育方法の実践研究』三学出版(2023年).			
参考書・参考資料等			
文部科学省『生徒指導提要』(2022年).			
文部科学省『学習指導要領:保健体育編』(小・中・高).			
その他授業時に適宜、紹介.			
学生に対する評価			

授業時の提出課題(25%). 討議・グループワークにおける発表・参加態度(25%).
定期試験(論述)50%.